

第4章 再発防止の取組

1 再発防止に向けた取組（中学校編）

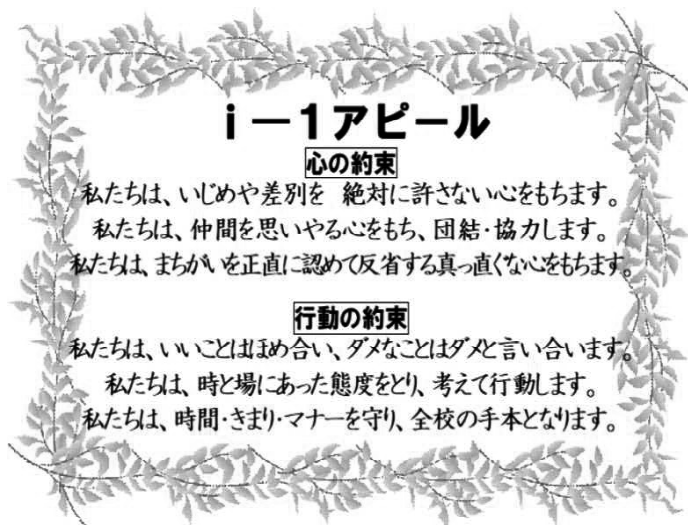
1 いじめが起きにくい集団づくり

生徒自らがよりよい学校生活を目指し、主体的な活動をしていくことで、集団内に自治的な力が高まり、結果として「いじめ防止」につながっていく。

次の取組は、中学1年生の生徒が主体となり、不要物の持ち込みや遅刻等、集団内に何らかの問題が発生した際に、ピンチをチャンスに変換した例である。

取組後は、生徒同士が互いに励まし合ったり、注意し合ったりする集団内の自治的な力が高まり、「いじり」や「からかい」などの不適切な言動を止めさせるような姿が見られるようになった。

この活動は、集団全体の負の雰囲気やを払拭し、エンパワーメントを図ることができるとともに、いじめに発展しかねない事案が発生した際も、「傍観者」を減らし、「仲介者」を増やす働きとなる。いじめの再発防止にも有効に働くことが期待できる。



2 「i-1アピール」 ～宣言文づくりを通じた自治的な力の向上～

「i-1」（アイワン）とはある中学校の1学年の愛称である。学年内で学校のルールを破るなどの問題が発生した現状を受けて、1学年級長会が中心となって学年の約束や宣言文を作成する活動に取り組んだ。

(1) 目的

- ・生徒一人一人が学年全体やその課題に関心を持ち、改善策を真剣に考えることによって集団の自治的な力を高める。
- ・「i-1アピール」を生徒の学校生活の指針とし、気持ちが緩みがちな時期などに生活の振り返りを行う。

(2) 策定までの流れ

①学年朝会で級長会長からの呼び掛け

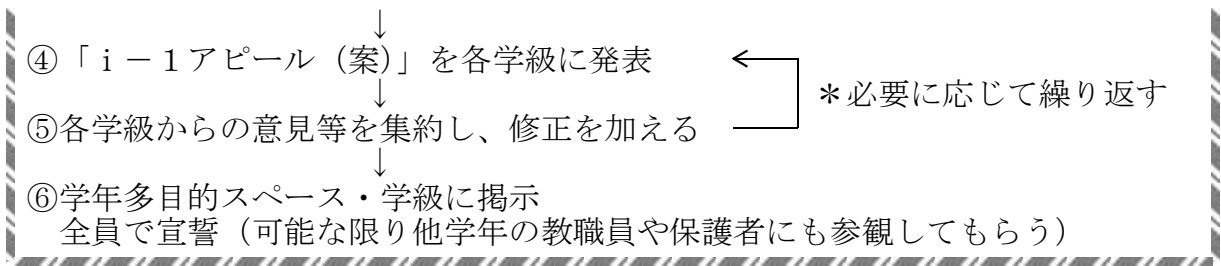
「…この学年の約束・宣言をつくりましょう！…学年の全員が安心して、安全に過ごせる学年、正直者が馬鹿を見ない・一生懸命に頑張っている人が損をしない集団にしていきましょう。そのためには、今、一人一人が本気になって私たちi学年のことを考えなければいけません。…」



【学級での原案作成の様子】

②学活で学級ごとの原案を作成（個人→班→学級）

③級長会で各学級の原案を基に「i-1アピール（案）」を決定



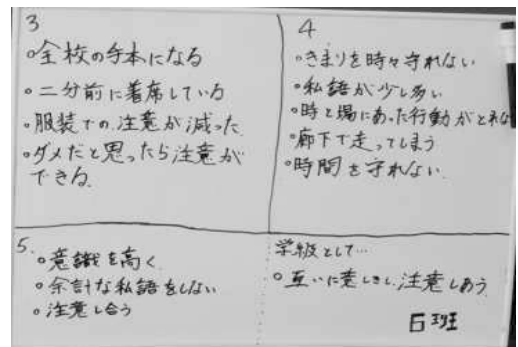
(3) 留意事項

- ・級長会と教職員で入念に打ち合わせを行うが、あくまでも生徒が主体的に活動していけるように配慮する。
- ・「級長会や学校から与えられたルール」ではなく、「自分たちが作り上げた約束」として受け止められるように、班や学級での話し合い活動を重視する。また、同様の観点から、各学級からの意見を可能な限り「i-1アピール」に反映させる。
(2)の④⇔⑤)
- ・策定、宣誓後も折に触れて「i-1アピール」を活用し、生徒が生活を振り返ることができるように活動を仕組む。
- ・新たな学年の問題が発生した際には、「i-1アピール」を修正したり、加除したりすることも視野に入れる。

◎宣言文を策定することだけがねらいではなく、策定前後の活動を重視することが大切である。策定までの様々な過程や振り返りの場面での話し合い等において、適切に評価したり、励ましたりすることで、生徒が自分が所属する集団に正面から向き合い、主体的に解決しようと問題に切り込んでいく勇気を育む。

以下は宣誓2か月後に行った話し合い活動の様子である。「個人 → 班 → 学級 → 学年」といった段階を経て、自分たちの学校生活の現状と「i-1アピール」とを照らし合わせて、成果や課題等を共有して改善策を探り、具体的な行動目標を確認し合った。(右下の3は「実践できていること」、4は「改善すべき点」、5は「具体的な改善策や行動目標」を班内でまとめたもの)

教師が話し合いの過程や結果を丁寧に見取り、ほめて、勇気づけることで、生徒は仲間や集団のためにアイデアを提案することや行動することに喜びを感じるようになる。さらに、望ましい思考や言動が強化され、いじめの前兆に気づき、問題を解決する力が身に付いていく。



【「学校生活の振り返り」ホワイトボードを用いた話し合い活動の様子】

- 生徒が自分が所属する集団のことを真剣に考え、よりよい集団を目指して主体的に活動していくことで、集団内の規範意識や自治的な力を高め、いじめが発生しにくい集団づくりを目指す。
- 与えられたルールよりも、自分たちで作ったルールの方が守ろうとする意識が高まるため、策定・修正の過程で、班や学級からの意見を大切にし、可能な限り反映させる。
- 折に触れて約束を活用して学校生活を振り返り、改善に向けた取組を継続することで、個や集団全体を向上させるとともに、よりよい集団づくりを目指す雰囲気醸成する。
- 生徒間で注意し合う際に、そのこと自体が「攻撃」とならないよう、「心の約束」を守って「仲間を思いやった」言動になるように配慮させる。SSTの一環として「相手を傷つけない注意の仕方」等を学ばせることも有効である。